

こども応援地域活動団体 訪問記

ふたみっ子育て隊

・お正月に飾るしめ縄づくり体験に参加してきました。
・ふたみっ子育て隊では、1年を通して、田植え、稲刈り体験、そこで育てたお米を使った調理実習、お米を脱穀した後の藁を使ってしめ縄づくり体験をしています。地域の方々から日本の伝統文化を教わる機会として、とても有意義な交流となっていました。



子午線ひろば運営委員会

・小学校の図書室と家庭科室を使って開催しているので、学校が終われば申込みなしで誰でも参加できるスタイルで活動されています。



・図書室で宿題が終わったら、家庭科室に移動して、今回はクリスマスのリースづくり体験。たくさんの材料の中から自分好みのリースを思いおもいに作っていました。

こども食堂レポート

今回は、清水小学校区の「清水っ子いちごプラザ」に行ってきました。



・運営スタッフは、清水まちづくり協議会の子ども部会のメンバーや学生ボランティアに支えられ、多世代が交流できる居場所となっています。ここでは、工作などを通して、子どもたちの創造力を育んでいます。

・この日は、節分の日も近く、みんなで鬼のお面やコップ作り挑戦しました!怖い顔をした鬼もいれば、色とりどりの顔をした鬼もいたり・・・オリジナルのお面やコップの制作に、みんなで取り組み楽しんでいました。



次はどここの食堂に行こうかな・・・次回もお楽しみに♪

こども食堂へのたくさんのご支援ありがとうございます



ご提供者	こども食堂への提供品
株式会社中市大福堂様	ラスク
株式会社創味様	白花豆、昆布豆
明石西ライオンズクラブ様	玄米
第一生命保険株式会社明石支店様	カレンダー
一般財団法人 こどもサポート財団様	クッキー
みんな「あすなろ」様	無農薬野菜
生活協同組合コープこうべ 第6地区本部様	大分県産つや姫(無洗米)
株式会社荒木商店様	抗ウイルスクリーナー
個人の方(4名)	お米、みかん、野菜



西日本こども研修センターあかし

National Training Center for Prevention of Child Abuse and Neglect

本研修センターでは、全国から子ども虐待防止に関わる指導的立場の方々を対象に研修を実施しています。

PICK UP! 子ども家庭総合支援拠点の設置等を支援するアドバイザー派遣事業

R5.1.13 香川県にて「市区町村子ども家庭支援体制強化研修」を開催
対象者：香川県内の17市町村中、12市町村17名が参加しました。



子ども家庭総合支援拠点の設置の意義や人材の育成等、組織体制づくりについて、香川県と共同開催により研修を行いました。今年度は、4ブロック7自治体へ出向いて研修を開催しました。

こども財団だより

CHILD FOUNDATION NEWS

- 第18号 -

こども財団の取組を紹介する季刊誌です

こども夢講座

1月27日(金)開催!

きみの未来は無限大! プロ野球編



子どもたちが社会への興味・関心を持ち、夢や希望を育む機会となるよう、こども夢講座の第4弾を開催しました。今回は、～プロ野球編～として、オリックス・バファローズの来田選手と乾スカウトを講師としてお招きし、「夢を持つことの大切さ」についてお話しいただくとともに、野球経験の有無を問わず楽しめる野球体験会等を実施しました。

講師紹介

きた りょうと 来田 涼斗 選手
小学校6年生のときにバファローズジュニアでプレー。明石商業高校在学時(明石市立明石商業高校出身)は、1年生の夏から3季連続で甲子園出場を果たした。2020年ドラフト会議で3位指名を受け、オリックス・バファローズに入団。1軍デビュー戦ではプロ初打席初球本塁打を放つなど、今後さらなる活躍が期待される選手です。

いぬい えみ 乾 絵美 さん
小学生のときにソフトボールを始め、2004年アテネ五輪で銅メダル、2008年(アマチュアスカウト)北京五輪で金メダルを獲得。2009年に現役を引退した。翌2010年からオリックス・バファローズの職員としてプロ野球の世界へ。2020年、アマチュアスカウトとしてプロ野球界初の女性スカウトに就任し、現在に至る。

野球体験会の様子



来田選手とのキャッチボール



ストラックアウト

ティーバッティング

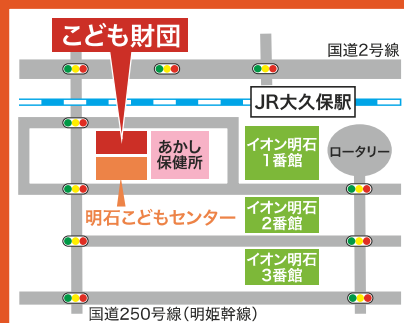
プロ野球選手とのキャッチボールには、経験者もドキドキしていました。ストラックアウト、ティーバッティングでは、乾スカウトからのアドバイスにより未経験者も的に当てることができました。講師のお二人も一緒に楽しんでくださり、会場が一体となって盛り上がりました。



公益財団法人

CHILD FOUNDATION

〈所在地 略図〉



〒674-0068
明石市大久保町ゆりのき通1丁目4番7号
電話:078-920-9670 FAX:078-920-9671
メールアドレス:info@akashi-kodomo-zaidan.jp
ホームページアドレス:https://akashi-kodomo-zaidan.jp/



質問タイムの様子

「夢を持つことの大切さ」について、事前に子どもたちから受け付けた質問にお答えいただく形でお話しいただきました。



Q. 努力の方法を教えてください

A. 「小さな目標のその先に大きな夢が続いていると思っています。目の前の目標を地道に一つひとつ達成していくことが大事」

来田選手

また、乾スカウトからは、2008年北京五輪の金メダルと2004年アテネ五輪の銅メダルを披露いただきました。

参加した子どもたちの声

来田選手ともしっかりキャッチボールしたかった。今日はありがとうございました。これからもがんばってください。



プロ野球選手になって、子どもにお伝えたいです。

Q. 結果が出ないときの気持ちの切り替え方を教えてください

A. 「できなかったことよりも、どうしたらできるようになるかをいつも考えていました。」



乾スカウト

引き続き、こども財団では子どもたちの「夢」を応援していきます!

こども食堂 × アート

アートを紹介した地域における子ども支援活動の推進

11月19日開催

中崎あいあい × 明石高等学校
こどもカフェ × コミックアート部

明石高等学校コミックアート（漫画やアニメ、ゲームに影響を受けたイラストレーションの一部）部の皆さんが、事前に用意した絵柄に子どもたちがぬり絵をしたり、子どもたちと学生と一緒に4コマ漫画づくりをしました。



「またやってほしい!」
「ずっとおねえさんとあそびたい!」

「たのしかった!」
「おにいさんおねえさんといっしょにあそびたいです」



「すこしむずかしかった」
「いっしょにあそびたい」



「またやってほしい!」
「また、おにいちゃんとおねえちゃんとおそびたい」

文化芸術のまちづくりの推進を図る「あかし文化芸術月間」期間中（令和4年11月3日～12月11日）に、当財団では『こども食堂×アート』に取り組みました。子どもの豊かな心を育むとともに、こども食堂の居場所機能の強化や、文化芸術の裾野を一層広げることを目的として、芸術を学ぶ学生ボランティアがこども食堂を訪れて、子どもたちがアートに触れる機会を提供しました。

11月26日開催

明石小学校区 × 神戸芸術工科大学
こども食堂きらり☆ × 特殊造形部

神戸芸術工科大学特殊造形（あらゆる素材を使って立体物を作る技術）部のオリジナルキャラクターのお面づくりを、子どもたちと学生と一緒に楽しみました。画用紙に描かれた各パーツに色を塗り、切り抜き、立体的なお面を完成させました。

2月4日（土）開催

参集: 8団体14名
オンライン: 14団体16名

地域活動団体 研修会

ボランティア活動の魅力等について理解を深めることで自分たちの活動を見直す機会としていただくとともに、ボランティア活動を継続していくためのヒント等を知る「地域活動団体研修会」を開催しました。

社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長 早瀬 昇氏

『自分たちの活動を振り返る～ボランティアの原点と魅力～』



ボランティア活動の魅力とは

ボランティアの鍵は、やる気（自発性）、世直し（公益性）、手弁当（無償性）。手弁当でも動くのは、ほっとけないから。そして、楽しいから。だから、機動的で、多彩。ボランティアのすばらしさは創造力です。

ボランティアに謝礼は必要ですか

お金が絡むと対抗的になり価格づけされ、拘束されます。無償であることで、調整しやすく、発信力が生まれます。

仲間づくりのヒントを教えてください

入りやすいお店は出やすいお店です。つまり、単発で参加できるプログラムもありますよと伝えると仲間になってくれる人もいます。

後継者がいません。どうしたらいいですか

次の人は後継者ではありません。“これまでと違うことをする”としないと伸びていきません。リーダーを任期制にしたり、重任制限するのも一つの方法です。



こども夢文庫 交流会

市内で活動しているこども夢文庫同士の交流や利用促進の取組などを情報交換

テーマ

『こうなったらいいな! これからの「こども夢文庫」!』



- 他のこども夢文庫の活動内容を聞いたので参考にしたい。
- 中学生、高校生にも来てほしい。
- もっと地域みんなの交流の場にしたい。
- 子育てに不安をもっているお母さんたちの寛げる場所にしたい。
- 幼稚園からこども夢文庫にもっとたくさん来てほしい。
- 季節感が感じられるような読み聞かせや、卒業した子どもたちが読み聞かせをしてくれるといいな。
- お母さんと子どもが、一緒にもっとたくさんの本を読んでほしい。 など。